



宮城 とみ子議員

2017年(平成29年)3月定例議会

3月議会が2月23日開会、3月21日閉会で行われました。議会では、平成29年度の予算を決める重要な予算特別委員会が開かれ、佐竹議員が委員として臨みました。代表質疑は宮城議員が行いました。



佐竹 知之議員

## 一般質問要旨

宮城議員

### 就学援助 一部改善

#### 小学校でも入学準備金前倒しを検討

鎌ヶ谷市では、この4月入学の新中学1年生への就学援助制度の入学準備金を3月中に支給しました。平成28年度3月時点では39人の児童が対象になりました。

義務教育9年間の校納金(学校に納めるお金)は約87万円にもなっています。(教材費や学校給食費など)

生活保護に準ずる準要保護1段階の認定者に対して実施されたのですが、小学生は今回対象になっていません。小学生もランドセルや、靴など多額の入学準備金がかかります。白井市や長生村などのように、小学生への実施を求めたところ、市は「支給を検討しているところ」と答弁しました。

#### 増額も要求

支給される入学準備金は、現在は、小学生が2万479円、中学生が2万3550円で、国基準と同じです。実際の保護者の負担額とはかなりかけ離れています。

国会で、この問題を共産党の田村智子参院議員が取り上げ改善へと政府を動かしました。

そこで、準要保護世帯への増額を市に求めたところ、市は「国からその旨、通知が来ている。国の予算が成立したら、鎌ヶ谷市でも、平成29年度より、支給額を増額する改定を行うことになる。今後、国、県からの正式な通知を受け、事務手続きを進めていく」と答弁がありました。

#### 入学準備金の増額 ほぼ2倍に

新中学1年生	4万7400円	に
新小学1年生	4万0600円	に



### 保育園・学校給食の地産地消

成長期の子ども達に、安全で、おいしい給食を、輸入食品の使用はやめること、そのためにも食材にもっと地元産を取り入れること というテーマで質問しましたが、鎌ヶ谷市での地産地消はまだ、始まったばかりという印象でした。学校給食費つまり食材費は年に約4億5000万円、4つの公立保育園の食材費は約5000万円、合計約5億円です。もっと、地元産野菜の生産力を増やして、安定的に確保するように、農業振興課や生産者などとの連携に力を入れ地産地消をすすめていくよう要望しました。

佐竹議員

### 教職員が子どもと触れ合える時間の保証を



#### 多忙化を解消し子どもたちと触れ合える時間を

教職員の多忙化問題で、人の働き方としても問題ですが、教師がもっと子どもと触れ合える時間を保証すべきだと質問しました。これに対して生涯学習部長は「多忙化解消の取り組みとして、会議や行事の見直しと精選(より良いものを選ぶ)のための会議を開催し、行事内容や運営方法の合理化と変更をすすめているところ」と答弁。また、「ノー残業デー、ノー部活デーなどを実施し、少しずつ退勤時間が早まっている」と改善点をあげつつ、「しかしながら、多忙化が解消されたとは言えず、子どもたちのために費やす時間を確保しながらも、教職員が元気に生き生きと働けるよう、今後さらに取り組みをすすめていく必要があると考えている」と答弁しました。

しかし、教職員の多忙化解消のためには教職員の増員が必要ではないかとの質問には、答えはありませんでした。

### 聴覚障がい者の施策の拡充、手話通訳者及び要約筆記者の養成は急務

鎌ヶ谷市における聴覚障がい者の施策と今後の課題について質問しました。現在、鎌ヶ谷市在住の聴覚障がい者は222人(本年3月現在)おられ、この10年間では36人増えています。この先、高齢化も進み、加齢による聴覚障害も増えてくることから施策の拡充を求めました。

答弁に立った健康福祉部長は、「聴覚障がい者のための施策としては、手話通訳者及び要約筆記者の派遣事業を行なっているほか、補聴器や日常生活用具の購入費助成制度があります」と答弁。鎌ヶ谷市に登録されている手話通訳者は12人、24時間体制での派遣事業を行っていることを明らかにしました。今後の課題としては、平均年齢の高くなった手話通訳者及び要約筆記者の人材育成が急務であると答えました。



### 危険な道路に自転車専用レーンの設置を

最後に、高齢者の交通事故が多発しており、自動車から自転車に乗り換えた高齢者が多く現状では極めて危険。自転車専用レーンの設置を要求しました。



